

編集後記

ここ1年、「2050年カーボンニュートラル」に向けた世界的な動きが加速している。一方で、化石燃料の価格や需給バランスの急激な変化に加え、寒波等の異常気象がエネルギー安定供給に影響を及ぼす事案も世界的に発生した。化石燃料に関しては、本号最初の記事に詳しい。簡潔に言えば、「脱炭素の理念」と「現実の需給」の乖離が化石燃料の需給バランスを崩している主因であろう。現在の脱炭素の動きは、1つの「ファッション」との見解もある。

エネルギー需給に関しては様々な要因が関係する。直近で前例のない大きな要因は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)である。世界的にその影響の検討が開始されており本号でも2番目の記事で考察した。今回は幸いにも稼働中の発電所への影響は原子力含めてほぼ無かったようであるが、需要側では分野によっては大きな影響を受けた。化石燃料については供給側の米国、中東、ロシア等の思惑も絡み今後も見通しは立ちにくい。脱炭素で最先端を行く欧州もこれからの冬に向けて燃料価格の高騰や供給難が問題となりつつある。欧州のマクロなエネルギー状況に関して

は、本号3番目の記事をご参照頂きたい。

エネルギー需給の不確定性の高さを指摘したが、2050年に向けて、脱炭素の動きは大きくは止まらないであろう。その中で、「カーボンニュートラル」は極めて野心的な目標である。使える技術を総動員しての取り組みが必須となる。本号最後の記事は、水素や蓄電池と比べ大きくは注目されていないが、近年関心が高まっている再生可能エネルギーの大量導入時に活用可能な蓄エネルギー技術の記事である。

偶然かもしれないが、本号の記事では日本の影が薄い。国内で再生可能エネルギーを増やしても、エネルギー供給の一定割合は海外に頼るであろう日本の将来は、やはり「技術立国」が1つの柱である。巻頭言に記載した通り、本年9月、当研究所はカーボンニュートラル実現技術の現状と将来展望、およびその背景について、幅広い読者を対象として解説した図書『図解でわかるカーボンニュートラル』を技術評論社から出版した。技術の観点で本号の記事と合わせて活用頂くことで皆様の今後の事業活動に少しでもご参考となれば幸いである。

編集責任者 茶木雅夫

季報 エネルギー総合工学 第44巻第3号

令和3年10月20日発行

編集発行

一般財団法人 エネルギー総合工学研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2

新橋SYビル(6F)

電話 (03) 3508-8891

FAX (03) 3501-1735

<https://www.iae.or.jp/>

(印刷) 株式会社 吉田コンピュータサービス

※ 無断転載を禁じます。